

令和元年度 第4四半期 (1月～3月)

# 景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 11.2 ポイント悪化、平成 30 年度第 4 四半期からは 33.3 ポイント悪化

## ■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲43.1 (前期比▲11.2、前年同期比▲33.3)、来期見通し (4月～6月) について、業況 DI 値は▲58.7 (当期比▲15.6) となった。

全業種で、引き続き人手不足や消費税率引き上げによる売上の低迷がある中で、新型コロナウイルス感染症の影響で加速度的に売上減少に陥っている。また、終息の目途が立たず先行きを不安視する声が多く聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が 37.7 (前期比+0.9、前年同期比+1.8)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 34.7 (当期比▲3.0) となった。

## ■製造業

業況 DI 値は▲43.2 (前期比▲6.9、前年同期比▲31.0)、来期の見通しについては▲53.9 (当期比▲10.7) となった。

自動車部品製造業では、新型コロナウイルス感染症の影響で産業機械・自動車市場において、需要低迷の声が聞かれた一方で、繊維製品製造業では新規にマスクの生産を始め売上確保につなげている事業所が見られた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

## ■建設業

業況 DI 値は▲17.4 (前期比▲0.7、前年同期比▲9.7)、来期の見通しについては▲56.5 (当期比▲39.1) となった。

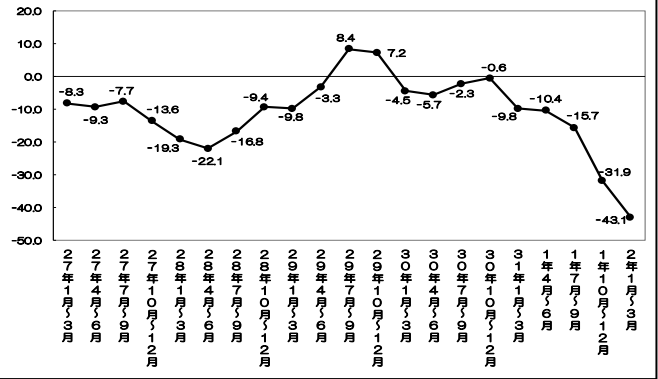
新型コロナウイルス感染症の影響で工期の遅延や住宅展示会などの集客イベントが開催できないとの声が聞かれる他、室内の除菌などを行う事業所では仕事量が増えているとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「官公庁需要の停滞」、「民間需要の停滞」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

## 調査概要

- 調査対象
  - (1)対象地区：豊橋市内
  - (2)対象企業数：338社
  - (3)回答企業数：169社 (回答率 50.00%)
- 調査期間  
令和2年1月～2月
- 調査方法  
往復はがきによるアンケート調査
- 回答企業の内訳  
製造業 82・建設業 24・卸売業 17  
小売業 21・運輸業 14・サービス業 11

## 全業種



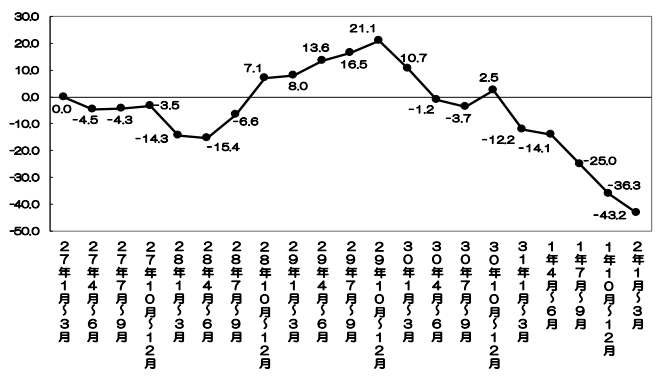
《A》 前年同期 (平成31年1月～3月) と比較した景況感

| 良い   | 同様    | 悪い    | DI 値  |
|------|-------|-------|-------|
| 7.8% | 41.2% | 51.0% | ▲43.1 |

《B》 来期 (令和2年4月～6月) の景況見通し

| 良い   | 同様    | 悪い    | DI 値  |
|------|-------|-------|-------|
| 3.2% | 34.8% | 61.9% | ▲58.7 |

## 製造業



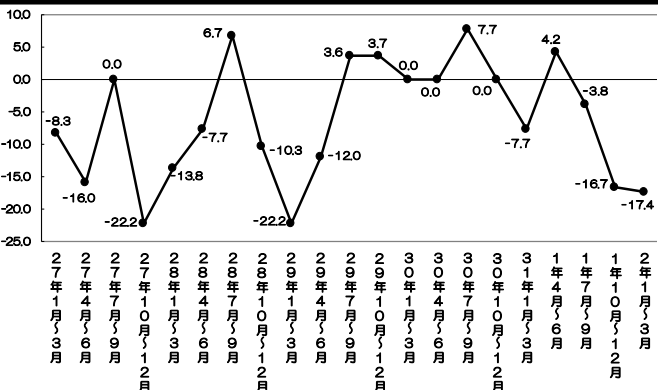
【前年同期比】 平成31年1～3月

自社の業況 ▲43.2 ↓

【来期見通し】 令和2年4～6月

自社の業況 ▲53.9 ↓

## 建設業



【前年同期比】 令和元年10～12月

自社の業況 ▲17.4 ↓

【来期見通し】 令和2年1～3月

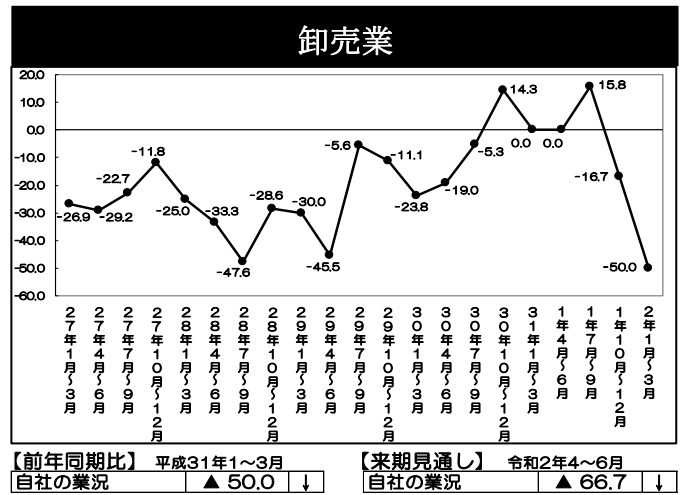
自社の業況 ▲56.5 ↓

## ■卸売業

業況 DI 値は▲50.0（前期比▲33.3、前年同期比▲50.0）、来期の見通しについては▲66.7（当期比▲16.7）となった。

釣り具卸売業では、暖冬の影響やコロナショックによるイベントの中止などで売上が伸び悩んでいる。また、水道機材卸売業においても、新型コロナウイルス感染症の影響で物流が滞っており、商品不足との声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「人件費以外の経費の増加」、「店舗の狭隘」が主に挙げられる。

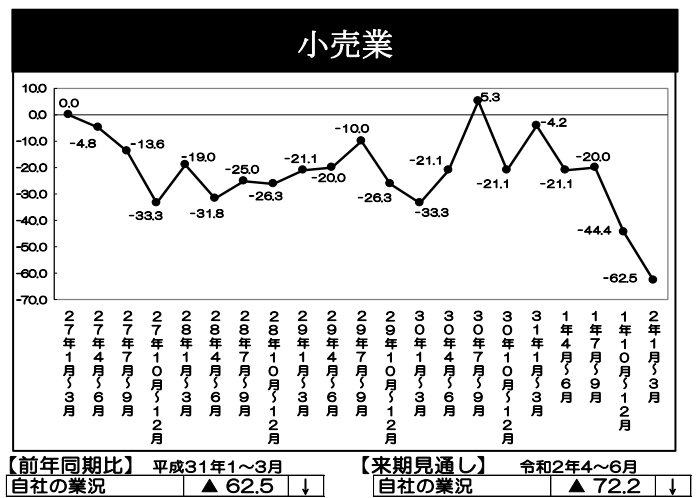


## ■小売業

業況 DI 値は▲62.5（前期比▲18.1、前年同期比▲58.3）、来期の見通しについては▲72.2（当期比▲9.7）となった。

石油小売業では暖冬の影響で加温用の燃料の売上低迷となっている他、書籍販売店では新型コロナウイルス感染症の影響で学校が休校となり新学期の準備ができない等の先行きを不安視する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」、「従業員の確保難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

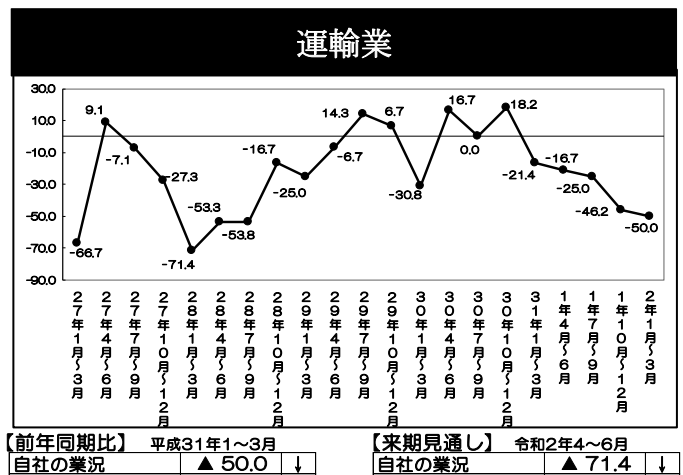


## ■運輸業

業況 DI 値は▲50.0（前期比▲3.8、前年同期比▲28.6）、来期の見通しについては▲71.4（当期比▲21.4）となった。

消費税率の引き上げ後、荷動きが悪く売上が伸び悩んでいるとの声が聞かれる他、自社や取引先で新型コロナウイルス感染者が発生する可能性もあるため、対策を考えておかなければならないとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「需要の停滞」、「運送単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。



## ■サービス業

業況 DI 値は▲50.0（前期比▲30.0、前年同期比▲31.8）、来期の見通しについては▲44.4（当期比+5.6）となった。

清掃業では、消費税率引き上げに加えコロナショックの影響でキャンセルや取引一時停止など業績悪化に歯止めがかからないとの声や、飲食業では宴会のキャンセルが相次いでいるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

